

注意報

長崎県病害虫防除所長

平成30年度病害虫発生予察 注意報第4号

野菜類 ヨトウムシ類・タバコガ類

1. 発生地域（対象地域） 県内全域

2. 発生程度 やや多～多

3. 注意報発令の根拠

- (1) フェロモントラップ（諫早市）の誘殺数は、ハスモンヨトウでは10月2半旬にピークがみられた（図1）。オオタバコガでは9月5半旬及び10月1半旬にピークとなり（図2）、シロイチモジヨトウでは9月5半旬にピークが見られた（図3）。
- (2) 10月前期のばれいしょにおける巡回調査（20筆）の結果、ヨトウムシ類の被害株率は16.3%（平年1.9%）、発生圃場率65.0%（同25.3%）であった。
- (3) 10月前期のいちごにおける巡回調査（27筆）の結果、ハスモンヨトウの食害株率は11.3%（7.2%）、寄生株率は2.0%（1.9%）、発生圃場率は81.5%（61.4%）であった。オオタバコガの寄生株率は0.6%（0.0%）、発生圃場率は22.2%（0.6%）であった。
- (4) 10月前期のブロッコリーにおける巡回調査（12筆）の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は3.3%（2.9%）、発生圃場率は41.7%（28.1%）であった。シロイチモジヨトウの寄生株率は3.7%（2.3%）、発生圃場率は33.3%（20.5%）であった。
- (5) 病害虫防除員の報告によると、ハスモンヨトウのフェロモントラップの誘殺数は県内全ての調査地点（千々石、南有馬、琴海、波佐見）で9月4半旬～5半旬にかけて急増している（図4）。

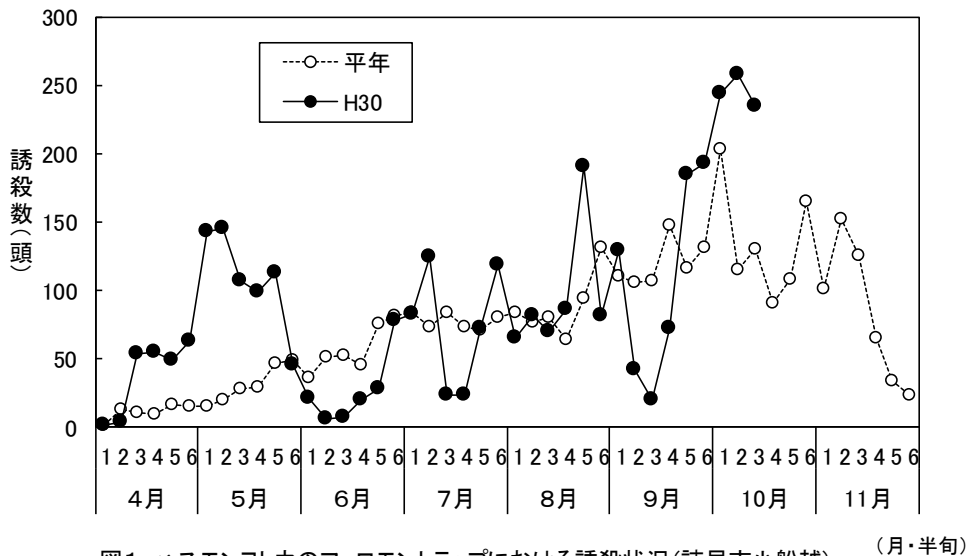


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越）
平年：H20～H29年の平均値（最大・最小値除く）

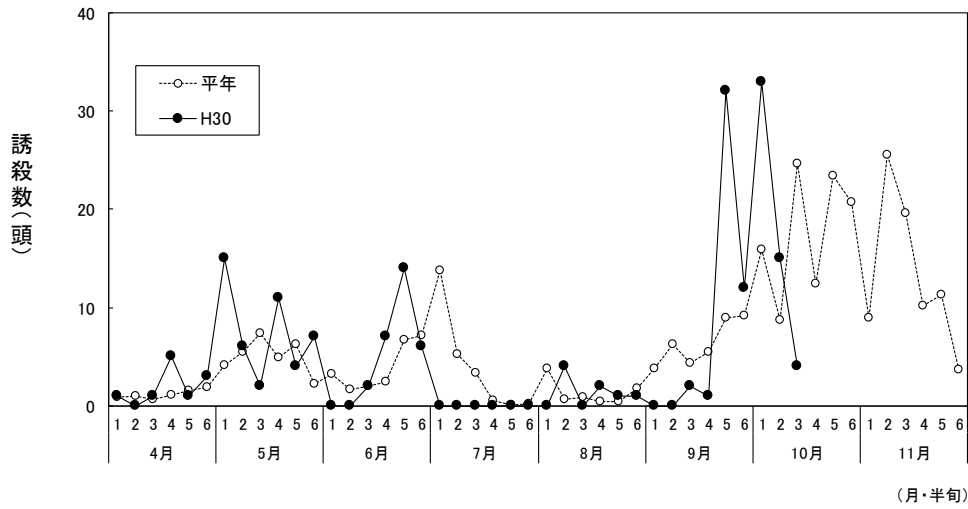


図2 オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)
 ※H22より粘着板からファネルトラップに変更
 平年: H19~H29の平均値(最大・最小除く)

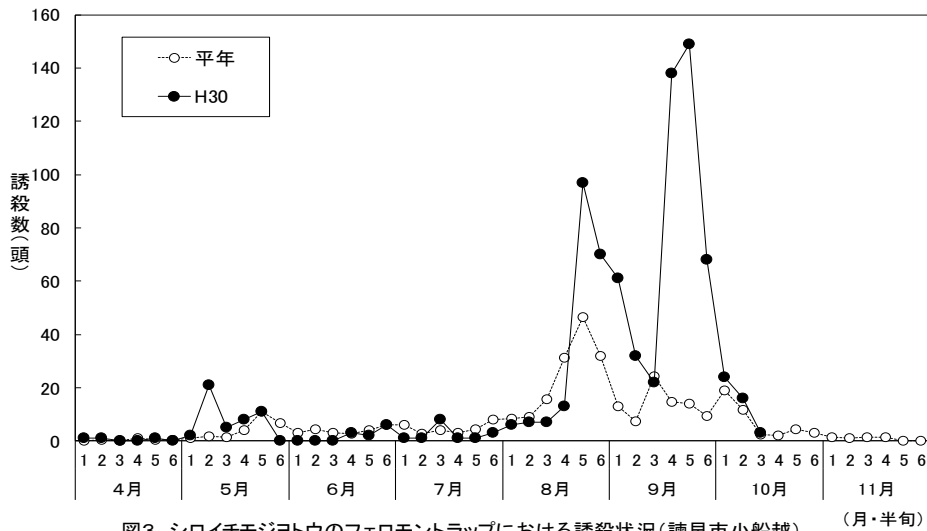


図3 シロイチモジトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越)

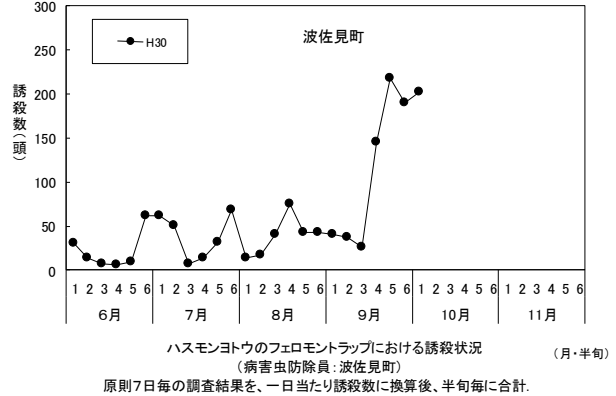
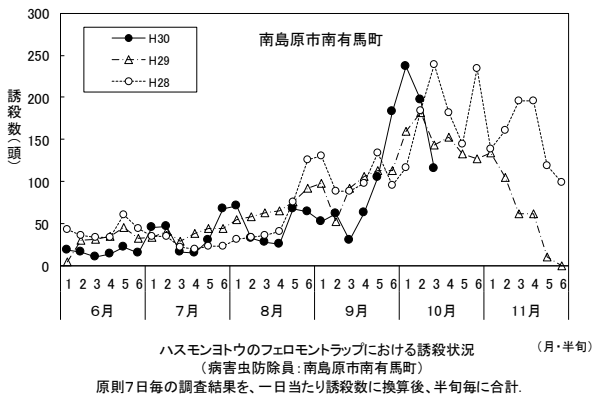
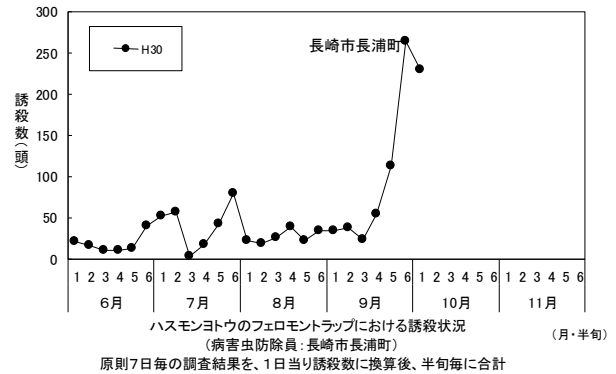
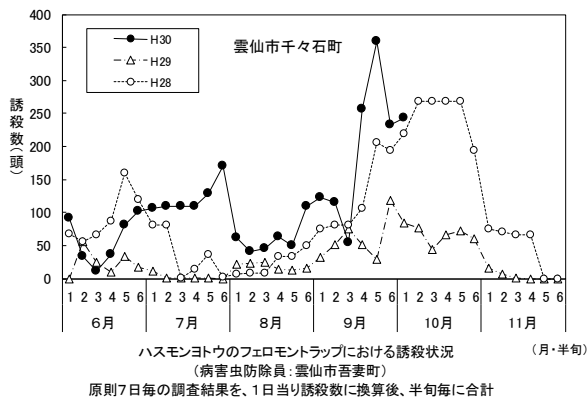


図4 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況

4. 防除対策

- (1) 圃場の見回りを徹底し早期発見に努め、卵塊や分散前のふ化幼虫は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- (2) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に防除を行う。なお、薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。
- (4) 幼虫の寄生や被害が見られたら早急に防除を行う。特にタバコガ類の幼虫がレタス等の結球内や花蕾に食入すると、薬剤がかかりにくくなり防除効果が低下するので、早期発見、早期防除に努める。
- (5) いちごの花、芯葉が食害されると収量に大きく影響するため、早期発見、薬剤防除に努める。
- (6) 今後定植するブロッコリー、レタス等では、育苗トレイへの灌注や粒剤の株元処理等を徹底し、初期生育期に食害が発生しないよう努める。
- (7) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット（4 mm目以下）で被覆すると、成虫の侵入防止に有効である。

○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

